

天下の三名槍が一つ「御手杵」

結城市

「日本号(にほんごう・ひのもとごう)」、「蜻蛉切(とんぼぎり)」とともに天下三名槍(てんがさんめいそう)と呼ばれた槍の一つ「御手杵(おてぎね・おてぎね)」。

この「御手杵」は、室町時代に下総国結城(現在の結城市)の大名・結城晴朝(ゆうきはるとも)が作らせたと言われる全長約3.8mの大身槍。鞘が細長く杵のような形(現在千本杵と呼ばれる杵の形状をかつては手杵と呼んでいた)であったことからこの名がついたと言われています。

そしてこの槍は、晴朝から養嗣子(ようしし)となった結城秀康(徳川家康の実子)、秀康の五男で松平直基へと受け継がれ、以後直基の子孫が代々所持しました。

その間に、槍の鞘の形が、中央が窪み両端が膨らんだ杵形(現在の手杵)をした馬印用のものが作られました。元々、馬印は戦国期の本陣(大将がいる場所)の目印でしたが、江戸期に入ると参勤交代の大名行列の先頭に掲げられるものとなりました。



鞘の重量は6貫目(22.5kg)、さらに途中で雨に濡れると熊の毛で作られた鞘が水を吸って10貫目(37.5kg)を超え、絞ると手桶に3杯ほどの水がとれたというこの槍、当時の持ち手の苦勞が偲ばれます。

その後、御手杵は昭和20年(一九四五年)の東京大空襲で焼失してしまうものの、現在では結城市にある結城蔵美館をはじめ、全国のゆかりのある地で復元展示されています。

ここ数年、刀剣女子と呼ばれる女性ファンも急増するなど、再び脚光を浴びている刀剣や武器。美術品や伝統品としての価値はもちろん、歴史の中で生きた姿を一振りでも多く後世に繋いでいきたいものです。

〈出典〉刀剣鑑定秘話／本阿彌光遜 著
※掲載事項には、諸説あります。



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>

いきいき茨城ゆめ国体2019  を応援しております。